

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年 12月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471100986		
法人名	(株) アーバン・ケア		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	広島県尾道市高須町4834-6 (電話) 0848 (55) 1355		
自己評価作成日	令和3年8月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471100986-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年12月13日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

東尾道公園に面し、いつも子供の明るい声が聞こえる環境で、気候の良い時期は、公園に散歩に出かけ、地域の人と触れ合いを持つことができる。又、ホームの五分圏内に、色々なお店が立ち並び買物しやすい環境でもある。 コロナ禍の為ボランティアや面会を制限しているが毎月行事を行い季節感と刺激のある生活を維持し利用者の皆様にコロナ禍の影響が出ないよう心掛けている。コロナワクチン接種も全員接種を終え、面会の制限緩和も検討中である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の隣に大きな公園があり、様々な用途で地域住民が利用している利便性を利用者の日常の散歩から行事等まで幅広く活用し提供している。コロナ禍において下肢筋力の低下が心配であるという家族からの声には理学療法士を配置する対応や、重度化に伴う看取り介護の希望をくみ取り最後まで支援する等、希望や意向を出来る限り叶えられるように支援している。中庭のウッドデッキと菜園を活用することで、コロナ禍による外出自粛からの閉塞感を緩和し、楽しみや季節を感じられるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたっている。毎月の職員会議での話し合いで目標や課題を共有している。	理念は玄関共有スペースに掲示しスタッフ間で共有している。年度初めに理念を基にした個人目標を立て、年1回個人面談と設定した目標をチェックシートに基づきスタッフと確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為公園の利用者の皆様とお話をする機会はなくなっているが、隣の公園への散歩を積極的に行っている。	毎日隣にある公園へ散歩に行く際に、地域住民と話す機会を設け付き合いを継続している。自治会へ入会しており、事業所の情報発信を行っている。事業所前でフリーマーケットを行ったり、公園での地域の行事へ参加したりと、可能な限り地域との関わりが出来るように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	家族会等で自治会の方に発信しているが、コロナ禍の為自粛している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議ではサービスの向上について話し合いをしているが、コロナ禍の為家族の参加は中止している。	コロナ禍において家族の参加は控え、集合して行っていないが、グループ内の3つの事業所でオンラインで行い、書面は行政、家族へ郵送し意見をもらっている。そこで出た意見と年1回利用者の願いを叶える取り組みを検討し、利用者や家族の意見、意向に沿った支援を行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協働関係を築くように取り組んでいる。	高齢者福祉課には、頻りに電話や直接出向くなどして、色々と相談し指導いただいている。	自治会長からは過去にシルバーリハビリ体操等、事業所で開催してほしいという依頼を受け、地域包括支援センターや行政と協働して行った事例もある。また、尾道市で2番目に開設した事業所であり、行政から相談を受けることもある。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修や職員会議などで周知徹底している。	毎月の職員会議で取り上げ、3カ月に1回は身体拘束廃止委員会を開催し検討している。また身体拘束のみならず、スピーチロック等、不適切ケアにおいても研修会等行い取り組んでいる。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	高齢者虐待防止法について職員会議での話し合いを行い徹底している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	家族・地域の方にも案内し、権利擁護について詳しい方（講師）をお呼びして勉強会を開いた。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようにしている。十分説明を行った上で、納得の上承諾書も頂いている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	御意見箱を設け御家族の御家族が言いにくい御意見が聞けるようにしている。又面会時にも御家族の思いを聞けるよう努力している。	ご意見箱を玄関に設置し家族より意見を集めている。コロナ禍において利用者の下肢筋力の低下を心配しているとの意見から、理学療法士を配置し下肢筋力低下予防を行っている。また、面会時には家族が帰る前に必ず話す機会を意図的に設け、意見を確認している。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は積極的に職員との話し合いをし提案を反映している。</p>	<p>年1回の個別面談や、日々の休憩時間の雑談の中で話を聞いたり、管理者と2人の勤務時間等に意見を聞いている。身体的に夜勤に入ることが難しくなってきたという意見から、夜間帯のルーティーンワークを見直し、夜勤の負担を軽くすることで就労の継続が行えた事例もある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員会議や日頃の会話等から、職員の考えや思いを把握し、安心して勤務できるような環境を整えている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部から理学療法士を招き介護技術とその知識を得る機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>アーバンケア内の施設との交流により職員間の交流や施設内のサービスの向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき、趣味や生活習慣を理解し安心出来る環境になるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居決定までには来所又は電話により、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱えたまま契約にならぬようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームを家族が希望しても、面談をしてみて、入所より在宅が適切であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共ににし、日々の話の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者ご家族とスタッフは家族的雰囲気でも話し合える関係作りが出来ている。又必要な方は携帯電話を利用して頂き御家族との連携を保っている。遠方の御家族には月報や電話で状況を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ渦の為 面会の制限をしているがすずらん便りや 手紙などで関係を保っている。	コロナ禍においては、リモート面会や予約制で玄関リビングにて面会を行い、関係性の継続に努めている。毎月の請求書にもすずらん便りやアルバムを入れ、利用者の様子が分かるように発信している。携帯電話の持ち込みも可能であり、電話で会話することに制限が無いよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人が孤立しないようリビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了された方の家族よりボランティアの申し出がある等、関わりは継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望・意向の把握に努めようと努力しているが、なかなか思いをくみ取ってあげることが出来ない方もおり、検討課題である。	認知症状が重度化している利用者には家族等から聞き取りを行い、職員も専門的視点より考察し、出来るだけ本人の意向に添えるよう努めている。年に1回、1カ月を使い利用者の願いを叶えることを目標とする月を設け、コロナ禍で難しいこと以外は叶えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活暦についても聞き、対応に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態に合わせ入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ有する力を全員が発揮できていない現状だが、残存機能を生かした支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しい方もおられ、日々の対応で知り得た情報より、思いを酌んでの介護計画となっている方もおられる。</p>	<p>モニタリングは担当介護職員が行い、会議等利用して計画作成者や他の職員と情報共有している。認知症状がある方にも日常生活の中でその利用者の表情や言葉の意味をくみ取り反映出来るように意識している。また、家族に意向の確認も行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには出来る限り協力体制を取っている。(庭の草むしり等)</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ渦以前は囲碁教室に通う等していた。今もお誘いの電話を頂くが自粛している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科・皮膚科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も適切な医療体制で臨んでいる。</p>	<p>利用開始時にかかりつけ医の希望を確認しており、協力医療機関以外の医師を選択することも可能である。また、歯科や皮膚科の医師も往診に来てもらえる体制を整備している。その他専門医への受診は基本的に家族の協力を得ており、必要に応じて職員が同行することも可能である。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化にも状況により訪問相談等、24時間体制で連絡がとれる関係である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院3ヶ月までは退居の必要はなく安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族の希望で看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、重症化した場合、終末期については主治医と施設・家族で話し合いを持ち三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。</p>	<p>利用者はほぼ事業所で看取り支援まで行っている。契約時に書面にて説明し、重度化した際に医師、家族、職員で意向を確認し看取り介護を行っている。また看取り介護のマニュアルやオンコールの体制も整備しており、スタッフの精神的な緩和にも配慮している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故に備えて緊急マニュアルをスタッフルームに掲示、それに従い落ち着いて対応するように伝達している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。</p>	<p>年2回の災害訓練を行っており、事業所に3日分の備蓄もある。ハザードマップ上の浸水災害の訓練のために、実際の地域の避難場所まで利用者と共に訓練したこともある。交流のある保育園とは災害協定を結ぶ予定であり、事業所の災害BCPも現在作成中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮しているが、完璧とは言えず、カンファレンス等で、スタッフに向けて、注意している。	呼称はさんつけで呼び、排泄の名称はスタッフ間のみ理解可能な名称を使用している。プライバシー等の研修会を定期で開催し質の向上に取り組んでいる。食事や衣類は選択可能な配慮をしており、本人が決めることを基本としている。難しい場合は職員が日々の生活と照らし合わせ選択と確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど考慮しているが、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方もおられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についてもまず声かけにより入居者の意思を確認し介助するように心がけているが、時間に限りがあり職員主導になりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思決定ができる方は化粧品等一緒に買い物などしているが、自己決定できない方は利用者の好みなど職員が把握するようにし支援している。又理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭きなどは手分けして職員と共に行い定着している。又食事中も会話が弾むよう職員が中に入ったり仲の良い利用者同士を同じ席にするようにしている。	事業所では3食手作りの食事を提供している。利用者にも準備を手伝ってもらい、中庭の菜園で育てた季節の野菜を提供したり、職員も同じテーブルで一緒に昼食を食べることで食事の楽しみとしている。外食の希望があれば家族と協力し行き、手作り可能な食べたい物は事業所で提供している。	

自己評価	外部評価	項 目(ころ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養状態はDrと相談しながら把握し、一人一人の嗜好などに配慮しながら支援している。又歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助する。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保つ。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。一人一人の能力に応じて介助を行っている。</p>	<p>排泄は座位姿勢を取り腹圧をかけることを基本としており、紙オムツの着用者はいない。職員は日々の話し合いで個々のパットの選定を検討し、リハビリパンツから布パンツに変更した事例もある。運動量や飲水量を把握し、乳製品の提供等行うことで内服薬に頼らないように考慮して支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々の曜日は決めていないが、時間帯はほぼ決まっている。入浴時は職員との会話を楽しんでいる。</p>	<p>1対1の入浴で楽しい会話を意識し、身体状況が重度化した場合はリフトやミスト浴も整備している。週2回の入浴回数を基本としており、希望に添い回数増加は可能である。入浴時にかかりつけ医の指示がある方には、浴槽で湯船に浸かっている際に腕等の可動域訓練も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(ころ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	睡眠パターンについては、職員 の方でほぼ把握出来ている。昼 夜逆転の傾向の人やその他夜間 の様子については申し送り等で 職員間で情報を共有、カンファ レンスで話し合い、日中のあり 方を検討し配慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方箋に目を通し、把握してお く。服薬時は日にちと名前を職 員2名で確認をし、誤薬の無い ように徹底している。又ノート を作成し主治医に体調の変化の 報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	レクリエーション、散歩等、声 を出したり笑ったり身体を動か したりという活動を日課の中 に取り入れるよう心がけている 。又、洗濯物の手伝い、食後の 片付け等個々の役割を決めて いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	向かいの公園へ数人に分かれて 出かけている。希望者には近く のお店に買い物に行ったり、ド ライブに行ったりするが、行け る人が限られ、家族や地域の人 に協力を得る事はできていない 。	隣の公園には毎日散歩に出か けている。商業施設が近所に多 くあり、買い物に出かけること もある。中庭のウッドデッキで のレクリエーションや菜園の草 取り等行い、コロナ禍でも閉 塞感が無いように努めている。 車に乗車したままのドライブや 花見も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	お金の所持に関しては、トラブ ルの元になるので、入所時から お断りしている。しかし買い物 の楽しみを味わっていただく 為に施設内でお店を開き、お 金を使う事の支援を行っている 。		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使っている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天候の良いときはなるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングはいつも季節感を感じられるよう配慮している。又行事やイベントの写真を貼ったりビデオを見たりして思い出を会話に繋げている。	利用者が作成した手芸作品をリビングの壁に飾ることで季節感が感じられ、毎月行っている行事の様子を録画し後日視聴することが楽しみとなっている。冬季は室内の温度と湿度に意識し、換気も行っている。中庭のウッドデッキは様々な用途で利用され、季節が感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室、同じ造りになっているが使い慣れた物を持ち込まれたり、テレビを置いたり家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋となっている。	居室にはエアコン、ベッド、タンスを常備しており、それ以外は自宅から馴染みの物を持参している。利用者の身体状況の変化に合わせて居室の配置や動線も考慮し定期的に検討している。和室希望の方には畳も持ち込み可能としている。趣味の物や仏壇、携帯電話の持ち込みも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	能力に応じてバーを利用したり、シルバーカーや車椅子で移動されている。歩行立ち上がりの不安定な方は居室にもバーや立ち上がりの為のポールも取り付けている。又お手伝いを積極的にして頂きADLの維持に努めている。日常行う行動については判りやすい掲示、案内などに配慮する。		

V アウトカム項目(ところ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたっている。毎月の職員会議での話し合いで目標や仮題を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為公園の利用者の皆様とお話をする機会はなくなっているが、隣の公園への散歩を積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	家族会等で自治会の方に発信しているが、コロナ禍の為自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議ではサービスの向上について話し合いをしているが、コロナ禍の為家族の参加は中止している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	高齢者福祉課には、頻りに電話や直接出向くなどして、色々と相談し指導いただいている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修や職員会議などで周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法について職員会議での話し合いを行い徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	家族・地域の方にも案内し、権利擁護について詳しい方(講師)をお呼びして勉強会を開いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようになっている。十分説明を行った上で、納得の上承諾書も頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御意見箱を設け御家族の御家族が言いにくい御意見が聞けるようにしている。又面会時にも御家族の思いを聞けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は積極的に職員との話し合いをし提案を反映している。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員会議や日頃の会話等から、職員の考えや思いを把握し、安心して勤務できるような環境を整えている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部から理学療法士を招き介護技術とその知識を得る機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>アーバンケア内の施設との交流により職員間の交流や施設内のサービスの向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき、趣味や生活習慣を理解し安心出来る環境になるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居決定までには来所又は電話により、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱えたまま契約にならぬようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>当ホームを家族が希望しても、面談をしてみて、入所より在宅が適切であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共ににし、日々の話の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者ご家族とスタッフは家族的雰囲気でも話し合える関係作りが出来る。又必要な方は携帯電話を利用して頂き御家族との連携を保っている。遠方の御家族には月報や電話で状況を密にしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍の為 面会の制限をしているがずらずらん便りや 手紙などで関係を保っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>一人一人が孤立しないようリビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>契約終了された方の家族よりボランティアの申し出がある等、関わりは継続している。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>希望・意向の把握に努めようと努力しているが、なかなか思いをくみ取ってあげることが出来ない方もおり、検討課題である。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活歴についても聞き、対応に活かしている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>個々の心身状態に合わせ入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ有する力を全員が発揮できていない現状だが、残存機能を生かした支援を心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しい方もおられ、日々の対応で知り得た情報より、思いを酌んでの介護計画となっいる方もおられる。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには出来る限り協力体制を取っている。(庭の草むしり等)</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ渦以前は囲碁教室に通う等していた。今もお誘いの電話を頂くが自粛している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科・皮膚科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も適切な医療体制で臨んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化にも状況により訪問相談等、24時間体制で連絡がとれる関係である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院3ヶ月までは退居の必要はなく安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族の希望で看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、重度化した場合、終末期については主治医と施設・家族で話し合いを持ち三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故に備えて緊急マニュアルをスタッフルームに掲示、それに従い落ち着いて対応するように伝達している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮しているが、完璧とは言えず、カンファレンス等で、スタッフに向けて、注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど考慮しているが、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方もおられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についてもまず声かけにより入居者の意思を確認し介助するように心がけているが、時間に限りがあり職員主導になりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思決定ができる方は化粧品等一緒に買い物などしているが、自己決定できない方は利用者の好みなど職員が把握するようにし支援している。又理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭きなどは手分けして職員と共に行い定着している。又食事中も会話が弾むよう職員が中に入ったり仲の良い利用者同士を同じ席にするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養状態はDrと相談しながら把握し、一人一人の嗜好などに配慮しながら支援している。又歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助する。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保つ。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。一人一人の能力に応じて介助を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々の曜日は決めていないが、時間帯はほぼ決まっている。入浴時は職員との会話を楽しんでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>睡眠パターンについては、職員の方ではほぼ把握出来ている。昼夜逆転の傾向の傾向の人やその他夜間の様子については申し送り等で職員間で情報を共有、カンファレンスで話し合い、日中のあり方を検討し配慮する。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋に目を通し、把握しておく。服薬時は日にちと名前を職員2名で確認をし、誤薬の無いように徹底している。又ノートを作成し主治医に体調の変化の報告をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>レクリエーション、散歩等、声を出したり笑ったり身体を動かしたりという活動を日課の中に取り入れるよう心がけている。又、洗濯物の手伝い、食後の片付け等個々の役割を決めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>向かいの公園へ数人に分かれて出かけている。希望者には近くのお店に買い物に行ったり、ドライブに行ったりするが、行ける人が限られ、家族や地域の人に協力を得る事はできていない。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金の所持に関しては、トラブルの元になるので、入所時からお断りしている。しかし買い物を楽しむを味わっていただく為に施設内でお店を開き、お金を使う事の支援を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使って頂いている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天候の良いときはなるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングはいつも季節感を感じられるよう配慮している。又行事やイベントの写真を貼ったりビデオを見たりして思い出を会話に繋げている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室、同じ造りになっているが使い慣れた物を持ち込まれたり、テレビを置いたり家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	能力に応じてバーを利用したり、シルバーカーや車椅子で移動されている。歩行立ち上がりの不安定な方は居室にもバーや立ち上がりの為のポールも取り付けている。又お手伝いを積極的にして頂きADLの維持に努めている。日常行う行動については判りやすい掲示、案内などに配慮する。		

V アウトカム項目(ゆめ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん

作成日 令和4年 1月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	29	コロナ渦により地域資源の活用が減っている。	地域資源との関係をとぎらせることなく保ち、コロナ終息後に活動出来るよう準備を整えておく。	月報等で情報交換を行い、コロナ終息後に向けた協力体制を構築する。	コロナ終息まで
2	51	コロナ渦による面会制限があり、入居者の皆様と御家族の皆様との関わり合いの減少。	コロナ渦による面会制限があり、月報や手紙などで御家族の皆様へ安心して頂く。	月報の中に手紙や写真等を同封し、入居者皆様の温もりや状況が伝わるよう取り組む。	1か月
3	13	避難訓練が現実に活かされるものになっていない。	いつどこで起きるか分からない災害や火災に職員全員いつでも対応出来るよう訓練する。	火災や災害の設定を設けず、その場その場で設定を変えて訓練する。	6か月後
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。